



りんくう医療ネットワーク 連携施設の先生のご紹介

連携施設の先生をご紹介しますコーナーです。

当院では、「かかりつけ医」と連携し、地域ぐるみで質の高い医療サービスを推進しています。

内科
循環器内科
心臓内科

イッセイ心臓内科クリニック



院長 塩谷 一成

診療時間：(午前) 9:00～12:00

(午後) 16:30～19:00

診療科目：内科、循環器内科、心臓内科

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	×
午後	○	○	○	△	○	×	×

△：往診 13:00～17:00

〒590-0521

大阪府泉南市樽井2丁目33-12

TEL: 072-480-2270

FAX: 072-480-2274

皆様こんにちは、イッセイ心臓内科クリニック 院長の塩谷一成と申します。

当院は、泉南市樽井、旧国道26号線沿い角丸石油さんの向かいにあります。

心疾患を中心に日々診療しています。より専門的な対応が必要な場合、りんくう総合医療センター様に紹介させていただき、大変お世話になっております。また、総合内科専門医として心臓以外の診療にも力を入れており、検診、ワクチン接種、往診、終末医療を含めて家族ぐるみで、町のかかりつけ医として当院を利用いただければ幸いです。

最近外来での指導は、知らぬ間に、食べる遊ぶがキーワードになっています。そういう私もこの3つをバランスよくできているかといえば案外難しいと感じております。特に遊ぶは奥が深いと感じるこの頃です。本来体を動かすことが大切ですが、コロナ下ではなかなか外出はできず、自粛を余儀なくされ、自宅学習する機会が増え、ふとしたことから漢字に興味を持ちました。昔、私自身が中学生の頃、武田鉄矢さんが演じる金八先生が教壇で熱弁をふるいます。『人という字は、人と人が支えあっている。』そうか、それこそ人間が獣ではなく、人間の証なんだと勝手に納得しておりました。あれから30年。あるラジオ番組で武田鉄矢さんが、『人という漢字は、人間を横から見た姿』としれーと言っておりました。鉄矢さんも学者さんから

指摘されて間違いに気づいたそうです。ショックでしたが、面白いと思いました。

では医者とは何ぞや？昔は、【醫】と書きました。「凡」は鳥の羽、【醫】「又」は手の意、これを合わせて鳥の羽がついた武器「矛」を手にもって打ち付けることを意味します。つまり昔の医者は箱に入った矢を手を持った矛でたたいたのだそうです。酉を除いた上半分は、音読みでエイと呼びます。つまり、秘匿の場所に置かれた呪力のある『矢』を呪飾の羽のついた矛で『エイ』と気合の入った掛け声をかけながら打ち、病気という悪鬼を払うのだそうです。また、この儀式には悪霊を祓い清める力があると信じられたお酒が添えられたので酒が加えられています。当時の医者も今の医者も患者を救いたい気持ちは同じだと思います。今のところ武器はありませんが、コロナをやっつける気合だけは持っていきたい。それでは、皆様、コロナを打ち破り、人類の健康を祈念して『エイ』と掛け声をかけてから日々の活動を開始してはいかがでしょうか。

最後になりますが、りんくう総合医療センター様にはいつもお世話になり感謝しています。今後も微力ながら地域医療に邁進していく所存ですので、なにとぞご指導、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

つばさ薬局



開局時間：(午前) 9:00～12:00

(午後) 12:00～18:00

※火・木は17:00まで

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	×
午後	○	17時	○	17時	○	×	×

〒598-0001

大阪府泉佐野市上瓦屋1093番地13

TEL: 072-463-7196

FAX: 072-463-7197



つばさ薬局
小出 能久

当薬局は平成14年6月より佐野台住宅に面した立地で開局いたしました。りんくう総合医療センターをはじめ近隣の様々な医療機関より処方箋を応需しております。地域医療において患者様に薬に関する情報提供と、処方された医療用医薬品のスムーズな流通を心掛けています。品切れしたり未在庫の薬が発生した場合、患者様に迷惑をかけることなく自宅に様々な方法でお届けしております。足の不自由な患者様には医療機関からファックスしていただき、自宅までの配達も行っております。また医療過誤防止のため日々研修会を開催し、処方内容の監査力を高めて医療機関への提言を行い、併用・重複・誤処方による事故を未然に

防ぐ努力を積み重ねております。

土日祝に診察のある泉州南部初期急病センターに輪番での勤務や、泉佐野市役所で行われる介護審査の委員をつとめたり、地元薬剤師会活動にも参加しております。

また地域連携薬局を目指し「地域包括支援センターが主催する地域ケア会議」や「介護支援専門員が主催する担当者会議」に参加して在宅患者様へ薬の居宅療養管理指導を行っております。医療機関、ケアマネジャー、訪問看護師、訪問ヘルパーさんとは常に情報を共有して在宅患者様がよりスムーズな薬の服用とQOLを高めることを目指しております。

薬局内では多数の薬が処方されていて服用困難な方には1包化を提案して飲み誤りや飲み忘れを防止したり、作業が長くなる場合はご自宅に配達させて頂いております。

現在未来の薬剤師の育成のため薬学部の学生を受け入れて実務実習もおこなっており、最新の医療情報などを大学から提供していただいております。

これからもより患者様が喜んで頂ける薬局になっていけるよう努力していきます。